

岩政（中央）の突破を阻止する廣井（左）。廣井は一年生ながらここまで安定したパフォーマンスを披露している（撮影・岩田陽一）



JR東日本カップ 2003 第77回関東大学サッカーリーグ戦(前期) 1部リーグ 第六節

駒澤大学3-0東京学芸大学

チームの成熟を感じさせる一戦。 ジंकウス関係なし！今季初の首位！！

鉄壁・東学ディフェンスから3得点！！

強豪との3連戦、初戦をいい形で飾った駒大は首位浮上をかけて東学大戦に挑んだ。しかし、駒大はこの試合に2つの不安要素を抱えていた。ひとつは昨年、優勝を果たしたにもかかわらず駒大は東学大に一度も勝っていないということ。ふたつ目は江戸川という競技場で近年あまりいい成績を残していないということ。選手間の中でも少しは意識があるようだ。しかし、中田は「昨年は昨年。お互いメンパーも変わったしそんなに意識はしていない」と語る。

試合は前半、駒大は前線からのプレスでチャンスをつくり、東学大は素早いカウンターからチャンスを作り出す。一進一退の攻防を繰り返すなか13分東学大の松浦が上手く裏に抜け出しシュート。しかし、ボールはゴールをとらえきれず逆に22分、原が個人技からシュートを放つがこちらもゴールとらえることが出来ず。前半は両チームとも決定的なチャンスを活かせず終了。

今季駒大は得点のほとんどが後半に生まれている(総得点9のうち8点が後半に生まれている)。この試合もその例外ではなかった。後半2分、桑原のセンターリングに巻が反応。巻がおとしたボールにいち早く反応したのは原。待望の先制点が後半開始早々に決まり、この得点で駒大は勢いに乗ると思われたが東学大も山下、岡島を中心に駒大ゴールへ迫る。しかし、ここは90分間声を絶やさないことを意識してやりました」と言う鈴木を中心とした駒大ディフェンスが落ち着いて対応。東学大に同点ゴールを許さない。一年生2トップもここまで2失点と鉄壁を誇る東学ディフェンスに果敢に挑みチャンスを作る。そして、迎えた33分、原がドリブルで抜け出しシュート。相手GKのファンブルを中田が押し込み追加点。ここまで、押され気味だった駒大が主将の一発で勝利をより現実的なものにした。このあとも攻撃の手をいっとうに休めない駒大は42分に橋本が鮮やかなボレーを突き刺しだめ押し。その後も東学大のシュートがバーを叩くなど運も味